



2021年度、カスタネット通信では「人工内耳(4月号)」「言語聴覚士とSDGs(5月号)」「コミュニケーションストラテジー(6月号)」の特集をしました。この3か月、聴覚障害に関わる記事を書いていたわけですが、その理由は8月にオギジビにやってくる実習生が人工内耳を装着しているからです。

7月号では、実習生に人工内耳での聴こえのこと、学校生活のことなどについて、たっぷりおはなしをしていただきました。というわけで、今月は特大号です。



## 【聞こえについて】

聴力は両側100dB以上で、人工内耳は6歳(保育園の年長)から片耳のみ使用しています。反対側の補聴器は、小学低学年の頃から使用しなくなりました。体育の授業の際にハウリングがひどく、聞こえの妨げになることや、周囲の注意を集めてしまうことが嫌で外してしまいました。人工内耳の両耳装着も勧められましたが、小さい頃はまた手術をするのが嫌で断っていました。高校生の頃に両耳装着を前向きに考え始めましたが、タイミングを逃し今に至ります。入院生活については、一緒に入院をしていた子のこと、ご飯が薄味であまりおいしいと感じなかったこと、手術室に移動する際に不安で大泣きをしたことなど、今でもはっきり思い出せます。もっと聞こえるようになるための手術ということは、幼い子どもなりに理解をしていたようです。残念ながら補聴器と人工内耳の音の違いは覚えていませんが、人工内耳を装着することで、小さい音が聞こえるようになったためか、時計の秒針の音が気になるらしく時計をずっと見ていたと親から聞きました。



裸耳では基本音が入ってこない状態です。雪の日のような静かで音が遮断される感覚とはまた違い、自分の思考がそのまま聞こえてくるような感覚です。本を読んでいる時に頭の中で声が聞こえる感覚と似ているかもしれません。裸耳の場合でも、太鼓の音のような低く大きい音は聞こえます。聞こえるというより身体で振動を感じているのかもしれない。

## 【人工内耳の装着感について】

人工内耳は自分の体の一部のような感覚です。恐らくメガネをかけている人と同じかと思います。たまに磁石が強く痛いと感じますが、疲れを感じることはあまりありません。磁石がついているため髪の毛を縛る時に工夫が必要になります。成人式など、他人に髪の毛をセットしてもらう時は、人工内耳が外れないか少しドキドキします。また、接触プレーが多いスポーツをしている時に、何度かヒヤリとした経験があります。

## 【人工内耳での聞こえについて】

おおまかな声の高さは分かるので、男性か女性か聞き分けることはできます。英語のリスニングのような短時間かつ少人数(声の種類が少ない)なら、聞き分けは可能です。しかし人の声を覚えるのが苦手なのか時間がたつと忘れてしまい、声を聞いても誰の声か分かりません。

黒板を引っかいた音や、物を引きずるような音が不快に感じます。初めて聞く言葉や、普段耳にしないような言葉は、聞き返すことが多いです。また、普段文脈から相手が言うだろう言葉を予想しながら会話をしているので、急に話題が変わったときに聞き返すことが増えます。雑音下では聞きたい声がぼやけ、曖昧になるように感じます。聞きたい声だけでなく雑音も同時に入ってくるため聞き分けが難しく、何度も話を聞き返してしまいます。

これまで4回機種変更をし、現在はN7(コクレア社)を使用しています(ESPrIt3G→Freedom→N5→N6→N7\*1)。N5からN6に変えた時に、ノイズキャンセリング機能によって雑音下で音の大きさが全体的に小さく抑えられるような、変化を最も感じました。また、中学生のころ使用していた機種(おそらくN5)が壊れてしまい、代替機が届くまで3Gを装用した時がありましたが、音程が聞き取りにくくまるで機械音声のように感じました。今年度から大学の講義の時にミニマイクロホン\*2を使用しています。



\*1 コクレア社の人工内耳の機種の名前です。補聴器とは異なり、人工内耳は数年ごとに1種類の新機種が発売されます。

\*2 発話者が持つことで、その声が直接人工内耳に送信されます。遠距離・雑音下での会話の聞き取りの向上に役立ちます。

## 【幼少期・学校生活について】

コミュニケーション方法は幼少期から現在まで口話です。手話は、大学に入ってから少し勉強しています。小学校から高校まで地域の学校に通い、ろう学校の先生に通級指導教室(小・中学校の時に月1~2回)とグループ指導(小学校の時に月1回)に来ていただきました。また、話し始める頃から小学3年生まで週1回程度、STの指導を受けました。人工内耳埋め込み手術後は、発音の練習がメインとなりました。家庭でのことばの練習ですが、親が厳しく毎日2時間程度行っていました。部屋の壁に動物のイラストが文字とともに貼られていたのを覚えています。



小中学校は1学年に1クラス(30数人)のみの小さな学校で、同じクラスのメンバーがそのまま進学しました。難聴について周囲も理解をしてくれ、大きな問題はありませんでした。ですが、数人で話をする際聞き取れず、おいていかれてしまい寂しいと感じることがありました。また、早口、声が小さい、こもったような声の先生の授業はことばが聞き取りにくく少し大変でした。小学校の6年間は臨時採用の教員がノートテイクをしてくださいました。クラスメイトには、話しかける際にはできたら肩を叩いてもらう、ゆっくり大きめの声で話してもらうといったことをお願いしました。また、席は前の方(前から3番目まで)にしてもらい、大事なことは視覚的に提示してもらいました。



授業は中学生まではついていけたのですが、高校生になると内容も難しく、進みも早くなるため、聞き取りが追い付かないことが時々ありました。教科学習では英語が苦手でした。リスニングは高校受験レベルから難しく、高校受験では別室受験、センター試験ではリスニングの免除といった対応をしてもらいました。



部活は中学校でバスケットボール、高校でハンドボール部に所属していました。パスをもらう時の声かけが聞こえないことがあり、他の人よりもきょろきょろと周りを見渡すといった工夫が必要でした。私はゆるい部活でしたが、強豪校となるとまた大変かもしれません。

塾には、受験対策として短期間通っていましたが。個人授業と、グループでの授業のどちらも経験しております。個人授業の方が、聞き取れない箇所があった際に質問を気軽にしやすいと感じています。

## 【障害認識について】

耳が聞こえにくいことについては、最初にたいてい自己紹介の場があるので、そこで伝えていました。小さい頃は、親が周りの子やその保護者にも積極的に話しかけ、耳が聞こえにくいことを開示し、質問されたらありのままをできるだけ答えるようにしていました。保育園入園時は、母が作ったお便りを先生に配布してもらって理解を得ていました。人工内耳を人に見られたくないと思うような時期もありました。小学高学年あたりで、人工内耳を髪の毛で隠すなどそのような思いが強かったと思います。中学生になってからは、校則で髪の毛を縛らなくてはいけないこともあり、逆に見せた方が相手に耳が聞こえにくいと伝わりやすいと、開き直るようになりました。中学2、3年生になって英語のリスニングに追い付かなくなってしまう時に、「自分は人工内耳を装着していないと聞こえない、他の人と違う」とはっきりと自覚するようになりました。



友達の声が聞きにくい時は、聞き取れたところを繰り返したり、要点を伝えたりといった工夫をして聞き返しています。最近はマスクで口形が読めなくなってしまい、苦労しています。日常生活を送るにあたり、もしかしたらアプリがあるのかもしれませんが、電話をする際に相手の話していることが字幕に変わる機能が欲しいと感じています。最近一部のチェーン店で、ご飯が出来上がった際の呼び出しで、番号がスクリーンに表示されるところが増えました。このようなシステムが広まってほしいなと思います。地震や事故があった時にアナウンスが聞き取れなかった場合は、情報を得るためにツイッターで検索を試みます。夜間の災害発生には特になにも対策していませんので、なにかしらの対策を検討しているところです。

## 【STについて】

言語聴覚士を目指したきっかけは特にこれといったエピソードはないのですが、自身の経験を活かして働きたいという思いから言語聴覚士を目指すようになりました。ろう学校の教員になろうかと考えていた時期もあります。

## 【子ども達へアドバイスをお願いします】



将来のため、子どもの頃やっていて良かったと思うことは？

自分と同じように補聴器や人工内耳をつけている友達をつくると、お互いに相談や情報交換ができます。ぜひ一生ものの友達を見つけてください。私はグループ指導やろう学校で開催される交流会で、補聴器をつけた友達が何人かできました。地方であり同年代の子がいなかったため、人工内耳をつけた友達は高校生の時参加した交流会で初めて出会いました。





補聴器装用を面倒がったり、嫌がったりする子どもへの対応は？

私もハウリングが嫌で補聴器をつけるのをやめてしまいましたので、嫌だという気持ちは分かります。原因を解消すればまたつけてくれるかもしれませんね。私の場合は、ハウリングで人工内耳の聞こえの妨げになってしまうこと、ハウリングの音で周りの注目を余計に集めてしまうことが嫌であるという意見を親に受け止めてもらい、無理強いはされなかったのを覚えています。まだ自分の意見が言えない幼児の場合ですとなかなか難しいですね。どうして嫌なのかの原因探索と、どうしていくかを担当のSTの方と話し合ってみてはいかがでしょうか。



聞こえが悪いことにも前向きになって欲しいと思っています！

聞こえが悪いことに対し後ろ向きになってしまうことは、私もあります。誰にでも苦手なことはあるし、私にとってそれは聞き取ることだっただけだと考えるようにしています。それでも時々落ち込むことはあるので、だれかに聞いてもらい、ストレス発散をしています。おしゃべりに限らず、スポーツや読書など自分が好きなことを思いっきり楽しんで、ストレス発散を試みてはいかがでしょうか。



中学に進むとなると親としては心配なことがたくさんありますが、本人は全然気にしていません。

私も自身の聞こえにくさを自覚し、対策をしようと感じたのは高校生、大学生になってからで、小学生のころは特に何も考えていませんでした。親からよく聞き取れていないよと注意されても、当時は反抗期ではねつけていましたが、今になってみるとありがたいことだったと感じています。

子どもの意思が確認できない時の決断は、とても悩まれると思います。私の親も人工内耳の手術をするかどうかでとても悩んでいたと聞きました。ですが人工内耳の手術をしたことで今の私があり、その決断には感謝をしてもしきれません。大変悩まれると思いますが、どんな決断もお子さんのためを思ったものであり、きっとお子さんの力になると思います。



聞こえについて親御さんとお話しはしますか？

高校生の頃は部活動であまり家におらず、大学生で1人暮らしを始めたため、聞こえのことについて親とじっくりと話したことはありません。ですが、「あなたは努力家だし強いから、どんなこともきっと乗り越えられる。けれど本当に辛い時はいつでも帰ってきなさい」といった言葉をかけてもらっています。コロナウイルスが落ち着いたなら帰省し、じっくり聞こえのことについて話してみようと思います。



皆様、いかがでしたか。実習生おひとりの経験ではありますが、当事者だからこそ伝えられる、貴重なおはなしがたくさんあったと思います。オギジビには人工内耳や補聴器を装用している方がたくさんいらしています。聴こえのことや人工内耳、補聴器について自分ではまだ思いを伝えられない小さいお子さんを育てている親御さん、成長過程にある小中高生など、多くの方にとってこのおはなしが参考になると良いと思いました。

8月号では、STの臨床実習はどのようなこと目的に、何を行うのか、私の思い出ばなしも含めお伝えしたいと考えています。

